

## 名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 久松 敬弘 君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元会長、東京大学名誉教授、久松敬弘先生は、平成9年7月22日ご逝去されました。享年75才でした。先生のご業績を偲び、謹んで追悼の辞を捧げます。

先生は東京大学工学部長、日新製鋼株式会社副社長、静岡理工科大学学長等を歴任され、昭和58年11月には藍綬褒章、平成7年11月には勲二等瑞宝章を受章されました。また先生の多くの学術上の業績に対して、財団法人本多記念会から本多記念賞(平成2年)、本会からは依論文賞(昭和56年)、西山賞(昭和60年)が贈られております。他に日本金属学会、表面技術協会、伸銅技術協会、腐食防食協会等から数多くの功績賞、論文賞、技術賞等を受賞されておられます。

本会の関連では、会長(昭和61年4月～昭和63年3月)、特定基礎共同研究会「鋼材の表面物性に関する研究」部会長、「鉄鋼の応力腐食割れ」部会長、第一回「亜鉛および亜鉛合金めっき表面処理鋼板に関する国際会議(GALVATECH)」組織委員長(平成元年)などの他、長年にわたり評議員として本会事業の推進に貢献されてきました。本会の他には表面技術協会、電気化学会、腐食防食協会、の会長を務められ、鉄鋼工学、金属表面工学、腐食防食学、などの広い分野において学術の発展に尽力されました。また文部省、科学技術庁、通商産業省等の各種審議会専門委員会等を通じて、我が国の科学技術行政に大きな貢献をされました。

先生は、昭和34年に「金属のアノード溶解に関する研究」により、東京大学より工学博士の学位を授与され、金属電気化学という新しい学問分野を切り拓かれました。金属材料が環境中で劣化する現象の機構解明を通じて、材料の耐環境信頼性を確保するという材料学の中心的課題に対する先生の寄与は、計り知れないものがあります。基礎理論に裏付けられた独創的な研究手法の考案から生み出された研究成果としては、耐候性鋼におけるさび層テクスチャーの機能、方位性ピットの生成条件の確立、単一食孔法によるステンレス孔食機構の解明、すきま腐食に関する臨界電位概念の提唱、ステンレス鋼の応力腐食割れにおける溶解の局在化現象に対する限界サイズの存在の指摘など、多くをあげることができます。いずれも世界に先駆けて新しい研究の方向を開拓した、卓越した業績であります。

先生は昭和48年に「金属材料を使用する上での信頼性というものが大きな社会的意味を持つ時代が来る(鉄と鋼：第59年8号)」と書かれています。今まさにこのような時代に直面しております。先生の先見性のある明晰な御意見が必要とされるこの時期に先生が突然他界されましたことは大きな損失であり、大きな悲しみであります。

名誉会員久松敬弘先生の鉄鋼技術の発展に尽くされました偉大なご業績を偲び、会員一同心から追悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成9年7月

社団法人日本鉄鋼協会 会長 野田 忠吉